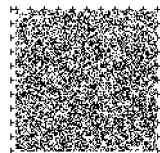


# 福岡県共助社会づくり 基金ニュース

私たちはつながっている。これまでも。これからも。

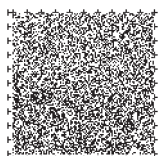


福岡県NPO・ボランティアセンター



# CONTENTS

福岡県共助社会づくり基金について	2
寄附金の種類・手続き／寄附のメリット	3
ふくおか地域貢献活動サポート事業とは／認定・特例認定NPO法人のご紹介	4
寄附者のご紹介	
イオン九州株式会社	5
九州朝日放送株式会社／ご寄附いただいた皆様	6
令和2年度ふくおか地域貢献活動サポート事業のご紹介	
<自由提案型>	
1. 心と身体を健康に!生き生き働くためのポジティブメンタルヘルス (一般社団法人キャリアサポートクラブ／株式会社グローバルケア)	7
2. いとしま市民ファシリテーター養成講座～行動につながる「対話の場」を作る (一般社団法人ママトコラボ／糸島市人権・男女共同参画推進課)	8
3. 食を通して広げよう健康の和～聞こえる人・聞こえない人みんなの健康の輪～ (特定非営利活動法人栄養ケア・ちっこ／久留米信愛短期大学／柳川市聴覚障害者協会)	9
4. おうちであそぼう会お外にでよう!すくすく子育てプロジェクト (特定非営利活動法人福岡津屋崎子ども劇場／特定非営利活動法人ふくつ子どもステーションすてつぷ／福津市健康福祉部子育て世代包括支援課)	10
5. テレワークを使った新しい障害者の就労と新しい職場づくり (特定非営利活動法人ふくおか視覚障害者雇用開発推進センター／特定非営利活動法人里山を考える会／NPO法人みんなの職場研究会)	11
6. 認知症カフェ運営者の人材掘起しと地域単位でのカフェ設置拡大 (一般社団法人久留米健康くらぶ／音成脳神経内科・内科クリニック／株式会社王子&エムコム)	12
7. 地域で青少年健全育成システムづくり (認定 NPO 法人未来創造ハピネス／福岡市中央区子ども会育成連合会)	13
8. LFC照葉－住民でつくる地域内栄養循環圏の構築－ (特定非営利活動法人循環生活研究所／積水ハウス株式会社／ローカルフードサイクリング株式会社／特定非営利活動法人ペパ)	14
9. スポレク遊びの広場 (特定非営利活動法人ISC糸島スポーツクラブ／PAGORU／怡土けん玉倶楽部／株式会社かけはし／オフロード・デザイン／Anna's Funglish)	15
10. 子どもの居場所支援・スペース虹事業 (特定非営利活動法人エンパワメント福岡／大野城学習支援室・かほちゃ／スペース虹)	16
<テーマ型－災害支援枠>	
1. 九州北部豪雨復興応援マーケット「朝倉いきいきヴィレッジ」事業 (特定非営利活動法人博多映画道場／朝倉いきいきヴィレッジ実行委員会)	17
2. 学校に行きづらい子・社会に出づらい人の自立支援 (特定非営利活動法人 フリースペース よつば／久喜宮地域コミュニティ協議会／東峰村教育委員会)	18
3. 九州北部豪雨の朝倉市内被災者をみまもり支援する (朝倉市ボランティア連絡協議会／グリーンコープ生活協同組合ふくおか)	19
4. 内発的発展型コミュニティの形成を促す事業 (一般社団法人Camp／久喜宮、杷木、松末、志波地域コミュニティ協議会／社会福祉法人朝倉市社会福祉協議会／朝倉市ふるさと課・復興推進室／JA 筑前あさくら)	20
5. 東峰村農業復興支援プロジェクト (東峰村元気プロジェクト／有限会社つつみの里／合同会社東峰村ツーリズム協会)	21
6. 東峰村買い物支援プロジェクト (東峰村元気プロジェクト／有限会社つつみの里／社会福祉法人東峰村社会福祉協議会／エフコープ生活協同組合)	22



# 福岡県共助社会づくり基金について

福岡県では、NPO・ボランティアや企業、行政などの多様な主体が地域の課題を解決するため、互いに支えあい、共に助け合う「共助社会」の実現を目指しています。

福岡県共助社会づくり基金は、この趣旨にご賛同いただいた県民や企業の皆さんの思いを「寄附」という形でお預かりし、NPO・ボランティアが多様な主体と協働して地域課題の解決に取り組む社会貢献活動へとつなぐ基金です。

## 特徴 1

### 寄附者の思いを受けとめます

「広く地域課題の解決を図る取組を応援したい」という県民や企業の皆さんから「寄附」をお受けします。寄附者が応援したい活動分野やテーマを指定して寄附することもできます。

## 特徴 2

### 課題解決に取り組むNPOへつなぎます

お預かりした寄附は、NPOが多様な主体と協働して地域課題の解決に取り組む社会貢献活動へ助成を行う「ふくおか地域貢献活動サポート事業」に活用します。NPOから協働事業の企画案を募集し、審査を経て助成対象となる協働事業を決定します。原則として、前年度にいただいた寄附を翌年度の「ふくおか地域貢献活動サポート事業」に活用します。

## 特徴 3

### 事業の成果をお知らせします

NPOにより実施された協働事業の成果は、成果発表会の開催や報告書「福岡県共助社会づくり基金ニュース」の発行などを通じて、広く県民の皆さんにお知らせします。

## 特徴 4

### 寄附された方のお名前を公表します

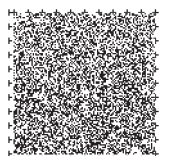
寄附者のお名前(企業名)は、広く県民の皆さんに公表します。  
詳しくは3ページをご覧ください。

## 特徴 5

### 寄附者は税制上の優遇措置が受けられます

福岡県共助社会づくり基金へのご寄附は、税制上の優遇措置の対象となります。  
詳しくは3ページをご覧ください。

## 基金のしくみ



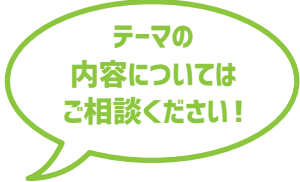
# 寄附金の種類 / 寄附の手続き

**普通寄附金** 共助社会づくりの活動を広く応援したい場合

**テーマ型寄附金** 特定のテーマを応援したい  
※個別のテーマ指定ができるのは50万円から

## テーマ例：過去に実施したテーマはこちら

平成25年～平成28年	福岡県の豊かな自然や景観などの環境保全活動
平成28年	熊本地震の震災支援
平成29年	熊本地震の震災支援、九州北部豪雨の被災地支援
平成30年	九州北部豪雨の災害支援
平成31/令和元年	平成29年九州北部豪雨及び平成30年西日本豪雨の被災地支援
令和2年	平成29年九州北部豪雨の被災地支援



## 寄附の手続き

### 1. ご相談

まずは福岡県NPO・ボランティアセンターにご相談ください。

### 2. お申し込み

寄附金申込書をお送りします。ご記入後、郵便・ファックス・電子メールのいずれかでお申し込みください。

### 3. 払い込み 振込手数料はかかりません

福岡県から納付書を送付いたしますので、お近くの金融機関でお振込みください。

## 寄附をすることで、2つのメリットがあります

### ■ 税制上の優遇装置を受けることができます

**企業の場合** 資本金の額にかかわらず、寄附金の全額を損金算入することができます。

### 個人の場合

所得税	[寄附金額の合計額 - 2,000円] × 所得税の税率 <small>※なお、控除の対象となる寄附金額は総所得金額等の40%が上限です。</small>
個人住民税	①基本控除 [寄附金額 - 2,000円] × 10% <small>※なお、控除の対象となる寄附金額は総所得金額等の30%が上限です。</small> ②特例控除 1. [寄附金額 - 2,000円] × [100% - 10% (基本分) - 所得税の税率] <small>※この特例分が住民税所得割額の2割を超えない場合</small> 2. (住民税所得割額) × 20% <small>※この特例分が住民税所得割額の2割を超える場合</small>
相続税	相続または遺贈により取得した財産を申告期限内に一定の要件を満たし、寄附した場合、その寄附をした財産は、相続税の課税価格の計算に算入されません。

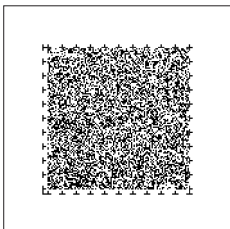


**ご確認ください**

- 税制上の優遇措置を受けるには、所得税の確定申告が必要です。
- 具体的な控除の額は、各担当部署へお問い合わせください。
  - ・所得税について………最寄の税務署
  - ・個人住民税について……お住まいの市区町村税務課

### ■ お名前を公表させていただきます

一定額以上ご寄附いただいた方のお名前を「福岡県共助社会づくり基金ニュース」や「福岡県共助社会づくり基金ホームページ」に掲載させていただきます。(匿名とすることも可能です)



# ふくおか地域貢献活動サポート事業とは

「福岡県共助社会づくり基金」を活用して、NPO・ボランティアが企業や行政などの多様な主体と協働して、地域課題の解決に取り組む社会貢献活動を応援する助成事業です。

**自由提案型** **普通寄附金** を活用した、活動分野を限定しない事業  
令和2年度：10件採択 詳細は7ページから16ページ

**テーマ型** **テーマ型寄附金** を活用した、寄附者の意向による一定のテーマに基づく協働事業  
令和2年度：テーマ「平成29年九州北部豪雨の被災地支援」  
6件採択 詳細は17ページから22ページ

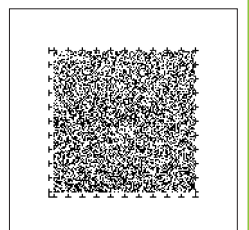
## 認定・特例認定 NPO 法人のご紹介

一定の要件を満たしていると所轄庁が認めたNPO法人に対し、様々な税制上の優遇措置を与え、NPO法人の活動を税制面で応援する認定・特例認定NPO法人制度があります。また、認定・特例認定NPO法人に対して寄附を行った場合、寄附をした方（個人、企業等）は様々な税制上の優遇措置を受けることができます。詳しくは、福岡県NPO・ボランティアセンターホームページ「NPOと寄附」([https://www.nvc.pref.fukuoka.lg.jp/npo\\_supports/index](https://www.nvc.pref.fukuoka.lg.jp/npo_supports/index))をご覧ください。

## 福岡県内に主たる事務所を有する認定・特例認定NPO法人一覧

- ・日本セラピューティック・ケア協会（太宰府市）
- ・九州補助犬協会（糸島市）
- ・日本車椅子レクダンス協会（久留米市）
- ・ソルト・パヤタス（糟屋郡篠栗町）
- ・ロシナンテス（北九州市小倉北区）
- ・嘉穂劇場（飯塚市）
- ・なおみの会（直方市）
- ・ワンストップリーガルネット（久留米市）
- ・文化財保存工学研究室（小郡市）
- ・山村塾（八女市）
- ・たんがく（久留米市）
- ・改革プロジェクト（宗像市）
- ・チャイルドケアセンター（大野城市）
- ・グループリビングこすもす（※）（久留米市）
- ・抱樸（北九州市八幡東区）
- ・響ホール室内合奏団（北九州市八幡東区）
- ・サイエンス・アクセシビリティ・ネット（福岡市早良区）
- ・チャイルドライン「もしもしキモチ」（福岡市中央区）
- ・SOS子どもの村JAPAN（福岡市中央区）
- ・ニコちゃんの会（福岡市城南区）
- ・地域福祉を支える会そよかぜ（福岡市博多区）
- ・障がい者より良い暮らしネット（福岡市中央区）
- ・ハッピーマンマ（福岡市南区）
- ・にこスマ九州（福岡市南区）
- ・エデュケーションエーキューブ（福岡市西区）
- ・エスタスカーサ（福岡市南区）
- ・未来創造ハピネス（福岡市中央区）
- ・アカツキ（福岡市博多区）
- ・緩和ケア支援センターコミュニティ（福岡市西区）
- ・ピーサポネット（福岡市東区）
- ・福岡・ネパール児童教育振興会（福岡市中央区）
- ・箱崎自由学舎ESPERANZA（福岡市東区）

（令和3年3月1日現在）  
括弧内は主たる事務所の所在地  
※は特例認定NPO法人



# イオン九州株式会社

## 【企業紹介】

イオン株式会社は2010年から、全国各地の地域行政と協働し、防災・福祉・環境保全の推進や「ご当地WAON」などを活用した商業・観光の振興など、さまざまな分野で双方が持つ資源を有効に活用するための協定を締結し、活動を展開しています。イオンと福岡県は、2012年4月に包括連携協定を締結し、福岡県の活性化と県民サービスの向上に協働で取り組んでいます。その取組のひとつが「ふくおか共創WAONカード」です。これは、全国のイオンのお店や加盟店で使える電子マネーカードで、利用額の0.1%を「福岡県共助社会づくり基金」に寄附し、NPO・ボランティア団体と企業、行政などの多様な主体との協働による「共助社会づくり」に役立ててもらおうものです。現在、イオンでは150券種を超える「ご当地WAON」が発行されていますが、これからもその輪を広げて地域の活性化のお役に立ちたいと考えています。



令和2年7月 イオン九州株式会社及びマックスバリュ九州株式会社からの寄附金贈呈式  
 (写真左から イオン九州株式会社 川村泰平執行役員中福岡事業部長、小川洋福岡県知事、イオン九州株式会社 柴田祐司代表取締役社長)

## イオン九州株式会社コーポレートコミュニケーション部九州エリア政策グループ部長の貴島昇さんにお話を伺いました。

**Q:今年度は、御社からの寄附により「自由提案型」の10事業に助成することができました。それらの事業について、ご感想をお聞かせください。**

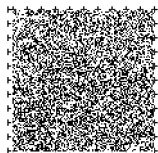
**貴島さん:** NPOやボランティアのみなさんが、企業や学校、行政など様々な主体と一緒に社会課題の解決に取り組まれており、いずれの事業も「共助社会づくり」につながる取組になっていると思います。例えば、「食と健康の和 協議体」さんの取組では、聴覚障がいを持つ方を対象に健康食教室や栄養バランスを考えた調理実習を開催し、短期大学や障がい者団体が一緒になって、聴覚障がいを持つ方の健康維持を図る「共助」の取組だと思っています。また「スプレク遊びの広場協議体」さんの取組では、親子が一緒に楽しめるけん玉教室やトライアスロン体験等を実施しており、各団体の強みを活かしながら事業に取り組まれています。他の団体さんも含め、いずれの事業も「共助社会づくり」の実現に向けた意義深い取組だと考えています。

**Q:寄附金の活用について、今後の希望をお聞かせください。**

**貴島さん:** イオングループでは「お客さまを原点に地域社会に貢献する」という基本理念の実践のため、地域に密着した活動を続けており、「ご当地WAON」もその一環として取り組んでおります。寄附金についても、環境保全、子どもの貧困対策、地域活性化など、様々な地域社会の貢献につながる事業に活用していただけると非常に嬉しく思います。「ふくおか共創WAONカード」や「福岡県共助社会づくり基金」がNPOやボランティア団体が行う協働事業への支援を通じて、福岡県の活性化に繋がっていくという仕組みや、その成果をより多くの方へお伝えできればと思います。そういったことをご理解いただいたうえで、「ふくおか共創WAON」の利用者が増え、寄附の好循環が生まれるように、今後とも地域の暮らしに根ざし、地域社会に貢献し続けることを目指してまいります。



福岡県のご当地WAON  
「ふくおか共創WAONカード」



# 九州朝日放送株式会社

## 【企業紹介】

「KBC水と緑のキャンペーン」は、自分たちが暮らす足元から自然環境について考えていこうと、創立45周年を記念して1997年からスタートし、昨年で24回目を迎えた環境キャンペーンです。KBCのテレビ、ラジオ、イベントなどを通じて環境保護の大切さを訴えるとともに、「KBC水と緑の基金」を募り、いただいた浄財を名木治療や被災地支援に活用してきました。17回目からは、「福岡県共助社会づくり基金」に寄附し、NPO・ボランティア団体と企業、行政などの多様な主体との協働による福岡県の環境保全・保護活動や被災地支援に役立てて頂いています。

第24回となる今回のキャンペーンは、コロナ禍により開始時期が遅れ、JR博多シティでのイベントは開催できませんでしたが、新たにクラウドファンディングへ取り組んだ結果、「福岡県共助社会づくり基金」に加え「福岡県新型コロナウイルス医療従事者応援金」にも寄附することができました。



令和3年1月 九州朝日放送株式会社からの寄附金贈呈式  
(写真左から 江口勝福岡県副知事、九州朝日放送株式会社 和氣靖代表取締役社長)



第24回KBC水と緑のキャンペーン

## 九州朝日放送株式会社総合編成局次長兼総合編成部長の大保一さんにお話を伺いました。

**Q:今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。**

**大保さん:** 豪雨災害の被災地の土砂・瓦礫の撤去作業や被災者の見守り支援といった、被災者のニーズに沿った支援事業となっており、視聴者・聴取者の皆様からいただいた寄附金を有効に活用いただいていることを大変嬉しく思います。被災地の復旧・復興にはこれからも息の長い支援が必要ですので、九州朝日放送としても情報発信をしながらサポートを継続していければと思います。

## 令和2年度事業にご寄附いただいた皆様

イオン九州株式会社 (令和2年4月)	3,398,260円	自由提案型
マックスバリュ九州株式会社 (令和2年4月)	695,896円	自由提案型
株式会社ダイエー (令和2年4月)	167,836円	自由提案型
トヨタL&F福岡株式会社 (令和2年4月)	974,170円	自由提案型
西部ガス株式会社 (令和2年6月)	100,000円	自由提案型
九州朝日放送株式会社 (令和3年1月)	4,656,267円	災害支援枠

ご支援をいただき  
ありがとうございました。

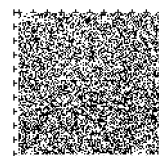
## 寄附金額合計

**9,992,429円**

※括弧内は寄附金納付年・月

**自由提案型** P7～P16の自由提案型に活用

**災害支援枠** P17～P22のテーマ型(災害支援枠)に活用



## 自由提案型 1

# 心と身体を健康に! 生き生き働くためのポジティブメンタルヘルス

### 協議体 メンタルヘルスサポート隊

所 在：北九州市八幡西区皇后崎町6-6

〈構成団体と役割〉

- ◆一般社団法人キャリアサポートクラブ  
企画運営、研修会での講師
- ◆株式会社グローバルケア  
企画に関する助言

〈問い合わせ先〉

#### ◆一般社団法人 キャリアサポートクラブ

電話 093-776-0318 FAX 093-691-4612

メール syokugyosien@gmail.com

HP・SNS等 <http://career-support.club/>



産業医による講演会の様子(上司・同僚間の心の交流)

## 課題・背景・目的

仕事で強いストレスや不安を感じ、メンタルヘルス上の理由で休業または退職する人が多くいる。過度のストレスは働く人のメンタルヘル스에 悪影響を及ぼすだけでなく、生産性を低下させたり事故を引き起こしたりする危険性があり、職場におけるメンタルヘルス対策は大きな課題となっている。

## 主な取組内容

企業に対し、メンタルヘルスに関する研修モデルを提案、管理者・担当者と一緒に研修の計画を策定。企業のニーズに応じた内容の検討や時間設定を行い、講義・ワーク・運動を組み合わせた研修を行った。また、産業医を招聘し、企業における上司や同僚間の心の交流のための具体的な取組についての講演会を開催した。

## 工夫した点

企業の管理者・担当者に対しニーズを聞き取ることで、企業規模や弱み・強み、悩みを共有し、従業員のやる気や意欲が向上する研修を行った。企業の実情により研修会が開催できない場合は、管理者へ聞き取り調査を行い、課題や取組の方向性を協議した。また、コロナ禍におけるストレスケアに関する資料を印刷し、配布した。

## 事業の成果・今後の展開

企業の実態に即した研修を実施したことで、管理者と従業員の交流が進み、上司と部下、また同僚同士で話しやすい関係を構築することができた。事業終了後も、事業主体である一般社団法人キャリアサポートクラブが中心となって取組を継続し、企業の規模や職種、対象となる人数に応じて課題を把握し、効果の上がりやすい取組を企業に提案する。

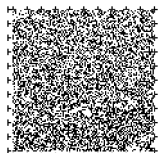
主な経費 チラシ等の印刷・広告費、スタッフ人件費、講師謝金



企業における研修会の様子(ストレスケア)



企業における研修会の様子(コロナ禍のメンタルヘルス)





## 自由提案型 2

# いとしま市民ファシリテーター養成講座 ～行動につながる「対話の場」を作る

## 協議体 糸島市ママトコラボ協議体

所 在：糸島市志摩初

〈構成団体と役割〉

- ◆一般社団法人ママトコラボ  
企画運営、広報、講師、参加者のネットワーク形成
- ◆糸島市人権・男女共同参画推進課  
企画、広報、アンケート分析、地域の現状の把握と共有

〈問い合わせ先〉

### ◆一般社団法人ママトコラボ

メール [mamatocolab@gmail.com](mailto:mamatocolab@gmail.com)

HP・SNS等 <https://mamatocolab.com/>



市民が参画しているまちづくりについて、具体的にお話を聞きました

## 課題・背景・目的

子育て期の女性は、子育てで培った生活スキル、地域での人脈、幅広い職務経験がある一方で、自身が感じている地域の課題やニーズを伝える方法が分からず、課題の共有や解決ができない現状がある。地域住民の思いや現状を話し合う場の構築や、そこでの聞き手や話を整理できる人材を養成することが求められている。

## 主な取組内容

住民同士が地域への思いや課題を共有し、対話を行う場を運営するファシリテーターを養成するため、全7回の「いとしま市民ファシリテーター養成講座」を開催した。講座では、話し合いの運営をするファシリテーションの手法を学ぶことで、多様な人が暮らす地域の中でお互いの強みを理解し、長期的な視野で行動できる人を養成した。

## 工夫した点

住民へのアンケートにより地域の現状を把握している行政と協働することで、ニーズや実情に沿った講座の構成ができた。講座では、参加者同士でコミュニケーションをとる時間を多く設定し、地域でのネットワーク形成につなげた。また、複数回オンラインで開催することにより、オンラインでのファシリテーションの手法も学んだ。

## 事業の成果・今後の展開

住民と対話をし、多様な意見の整理、合意をはかりながら結論を出す対話の場づくりや対話のプロセスづくりができるファシリテーターを養成することができた。今後も、スキルアップやネットワーク形成を継続して行い、市主催の事業などで進行役、ファシリテーション役が必要な場合は、本講座の修了生に依頼することとしている。

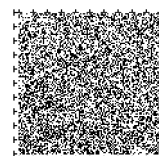
## 主な経費 講師謝金、スタッフ人件費、旅費、チラシデザイン費



自分の強みと相手の強みを「可視化・言語化する」ワーク



様々な視点から「幸福感」について考えました



自由提案型 3

# 食を通して広げよう健康の和 ～聞こえる人・聞こえない人みんなの健康の輪～

**協議体** 食と健康の和 協議体

所 在：筑後市大字馬間田157-4

〈構成団体と役割〉

- ◆特定非営利活動法人栄養ケア・ちっこ  
企画運営、献立作成、SATシステムの使用、調理指導、個別栄養相談
- ◆久留米信愛短期大学  
展示説明、調理指導、個別栄養相談、大学生ボランティアの指導
- ◆柳川市聴覚障害者協会  
コミュニケーションアドバイス、広報、啓発、交流会企画進行

〈問い合わせ先〉

- ◆特定非営利活動法人栄養ケア・ちっこ  
メール diet@eiyou-care-chiggo.info  
HP・SNS等 http://eiyou-care-chiggo.info



調理実習 全員フェイスシールドとマスク着用

## 課題・背景・目的

聴覚に障がいがある人は、自治体や医療機関が実施する健康診断を受けることが少なく、生活習慣病のリスクが高いとされている。また、当事者からは、食事や病気に関する不安があり、市民と交流しながら共に学べる場が欲しいとの意見がきかれる。食に関する体験イベントを開催し、自分で生活習慣病を予防する知識の習得につなげる。

## 主な取組内容

聴覚に障がいがある人とない人の両方を対象に、久留米市と柳川市において、健康食教室、調理実習、交流会を実施。教室では、実物大のフードモデルを選び専用のセンサーボックスに乗せ、栄養価計算をするSATシステム等を使って生活習慣病の予防法を学び、実習では栄養バランスの良い食事を調理、交流会では全員で手話を学び、聴覚に障がいがある人とない人の交流を図った。

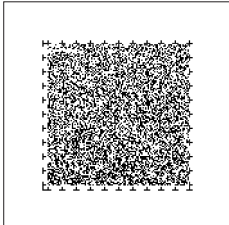
**主な経費** 手話通訳者・スタッフの person 費、旅費、資料作成費、会場賃借料

## 工夫した点

SATシステムを活用することで、楽しみながら食生活を見直すことができた。また、市販品や総菜物の選び方や減塩に関するクイズを取り入れることで、より参加者に分かりやすい内容とした。実習では、手話通訳者を配置して理解が深まるように環境を整え、交流会ではクイズを取り入れることで、参加者同士が楽しく交流を図れるようにした。

## 事業の成果・今後の展開

聴覚に障がいがある人が10名参加した。教室では、参加者の多くが真剣にスタッフの説明を聞いており、また減塩に関する質問も多くあがり、参加者には好評だった。また実習では、参加者同士がコミュニケーションをとりながら調理ができた。今後も、食のイベントの開催を継続することで、聴覚に障がいがある人や市民の生活習慣病の発症予防や重症化防止に努める。



減塩クイズに挑戦



聴覚障がい者が手話講師

## 自由提案型 4

# おうちであそぼう会お外にでよう☀

## すくすく子育てプロジェクト

### 協議体 ふくつアウトメディア協議会

所 在：福津市宮司4-20-25

〈構成団体と役割〉

- ◆特定非営利活動法人福岡津屋崎子ども劇場  
企画運営
- ◆特定非営利活動法人ふくつ子どもステーションすてっぷ  
資料の作成、スタッフの養成
- ◆福津市健康福祉部子育て世代包括支援課  
資料の配付、福津市内の小学校との調整

〈問い合わせ先〉

- ◆特定非営利活動法人福岡津屋崎子ども劇場

電話 0940-52-0802 FAX 0940-52-0802

メール [ftkodomoc@crux.ocn.ne.jp](mailto:ftkodomoc@crux.ocn.ne.jp)

HP・SNS等 <http://fukutsu-kodomo.com/>



乳幼児健診での啓発活動の様子

### 課題・背景・目的

スマートフォン、タブレットの普及に伴い、子どもの電子映像メディア接触の早期化、長時間化による言語機能や認知機能・視力・体力・学力等の低下が問題となっている。電子映像メディアを子どもが発達に応じて利活用できる力を育むには乳幼児期と小学校低学年までの早期啓発を行うことが不可欠である。

### 主な取組内容

福津市が行う乳幼児健診、4カ月児健診、1才6カ月児健診、3才児健診にあわせて、健診を終えた親子に対して電子映像メディアとの関わり方や食事、睡眠、遊びといった生活全般についての傾聴を行い、必要に応じてアドバイスをを行った。また、保護者を対象とした講演会や、啓発スタッフの養成講座を実施した。

### 工夫した点

乳幼児健診や小学校の入学説明会にあわせて啓発を行うことで、全ての保護者に対応することが可能となった。また、他市町村で子育て支援や電子映像メディアの啓発を行っている専門性の高い団体と協働することで、より事業効果を高めることができた。

### 事業の成果・今後の展開

参加した保護者は真剣な様子で話を聞き、また電子映像メディアにとどまらず、子育て全般への質問も多数あがり、参加者には好評だった。今後も、発達に応じた電子映像メディアとの関わりを促す啓発を行うことにより、多くの子どもの健やかな成長発達を促し、電子映像メディアに頼らない子育てを拡げていく。

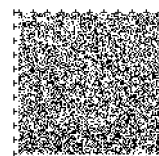
主な経費 旅費、スタッフ人件費、啓発用リーフレット作成費



医学博士磯村敦氏の講演会の様子



スタッフ養成講座の様子



## 自由提案型 5

# テレワークを使った 新しい障害者の就労と新しい職場づくり

**協議体** テレワークとサテライトオフィスを利用した新しい障害者雇用を考える会

所 在：北九州市八幡西区鷹見台4-18-8

〈構成団体と役割〉

- ◆ 特定非営利活動法人ふくおか視覚障害者雇用開発推進センター  
企画運営、視覚障がい者の就労支援
- ◆ 特定非営利活動法人里山を考える会  
市内企業への障がい者の雇用促進
- ◆ NPO法人みんなの職場研究会  
難病患者もしくは障がい者全般の就労支援

〈問い合わせ先〉

- ◆ 特定非営利活動法人ふくおか視覚障害者雇用開発推進センター  
電 話 080-4637-0644  
メー ル akamatsu@career-i.jp



サテライトオフィスの視察の様子

## 課題・背景・目的

障がいを持つ人の就労に関する法律の整備は進んでいるが、北九州市における障がいを持つ人の雇用率は低迷している。その理由として、市内の企業は、職場が危険な工場内にあったり、公共交通機関で通勤するには不便な立地にあるケースが見受けられることが一因とされる。安全な職場環境づくりとして、テレワークやサテライトオフィスの設立を目指し、障がい者の就労支援に取り組む。

## 主な取組内容

障がいを持つ人に対し、「どのようなことができ、また障がいがあるためどのようなことができないのか」や「どのような支援や機器があれば就労できるか」、また企業に対し、「何が雇用の妨げとなっているか」といった調査を行い、両者のニーズを把握した。また、職業訓練施設とのオンラインによる意見交換や、県が設置しているサテライトオフィスへの視察を行った。

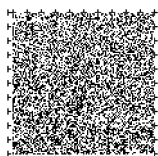
**主な経費** 介助ボランティアの人件費、ホームページ作成費、旅費

## 工夫した点

サテライトオフィスの視察の際は、実際にオフィスの担当者から、障がいを持つ人が働きやすい環境づくりの方法やサポート体制について聞き取りを行い、またオフィス内での勤務に伴う動線を確認することで、利用者へのきめ細やかな就労支援につなげられるようにした。

## 事業の成果・今後の展開

新たな働き方の調査やサテライトオフィスの視察を行ったことで、障がいを持つ人が働きやすい環境づくりや、効果的な支援方法を学ぶことができた。来年度以降、サテライトオフィスを設立することで、障がいを持つ人自身の就労への意欲向上、企業の障がいを持つ人に対する偏見と雇用を見直す機会となることを目指す。



障がい者と企業へアンケート調査の作成の様子



オンラインによる会議を行うことで効率的に作業を進めることができました

## 自由提案型 6

# 認知症カフェ運営者の人財掘起しと 地域単位でのカフェ設置拡大

## 協議体 久留米認知症カフェを広める会

所 在：久留米市中央町35-1

〈構成団体と役割〉

- ◆一般社団法人久留米健康くらぶ  
事務局、企画・広報、認知症カフェ運営者への運営ノウハウの提供
- ◆音成脳神経内科・内科クリニック  
医師会への渉外、企画、広報
- ◆株式会社王子&エムコム  
介護福祉事業者や薬剤師会への渉外、ケアマネ・薬剤師の派遣、企画、広報

〈問い合わせ先〉

- ◆久留米認知症カフェを広める会  
電話 0942-35-0212 FAX 0942-35-0212  
メール kenkou@117fureai.org  
HP・SNS等 <http://117fureai.org/>



一緒につくろう認知症カフェセミナーの様子

## 課題・背景・目的

認知症の不安を抱える人、その家族、一般市民や専門家が気軽に集い、認知症を正しく理解し学ぶ認知症カフェは、認知症の進行防止、早期発見・予防の面で必要なものであるが、認知症カフェの認知度はそれほど高いとはいえず、数も不足していることから、認知症カフェの意義の周知と普及拡大が課題となっている。

## 主な取組内容

令和2年10月、久留米市内において、県民を対象に、認知症の基礎知識や認知症カフェの現状を啓発し、認知症カフェの企画や運営を行うカフェマスターを募集する「一緒につくろう認知症カフェセミナー」を開催。また、11月から翌年3月まで、カフェマスターを育成する「認知症カフェマスター育成研修」を計6回実施した。

## 工夫した点

県や久留米市からセミナーの後援を受け、県内の関係団体や市内のコミュニティーセンター等へ広く周知することで、より多くの参加者を募ることができた。また認知症カフェの第一人者である、東北福祉大学准教授の矢吹知之氏が、認知症カフェの現状や課題についてオンライン講演を行うことで、参加者がより実践的・先進的な事例を学ぶことができた。

## 事業の成果・今後の展開

セミナーには定員を超える参加があり、認知症の基礎知識や予防法、認知症カフェの現状や運営について啓発を行うことができた。研修ではカフェマスターを16名育成することができた。今後は更なるカフェマスターの人財掘起しを行い、県内全域で認知症カフェの拡がりを目指す。

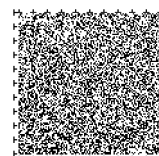
主な経費 スタッフの活動人件費、講師謝金、会場使用料、事務費



認知症カフェマスター育成研修



久留米認知症カフェを広める会の会議



自由提案型 7

# 地域で青少年健全育成システムづくり

**協議体** 地域で青少年健全育成プロジェクト

所 在：福岡市中央区薬院2-4-5-803

〈構成団体と役割〉

- ◆認定NPO法人未来創造ハピネス  
企画運営、資料・チラシ作成、高校・大学への広報
- ◆福岡市中央区子ども会育成連合会  
企画運営、小中学校への広報

〈問い合わせ先〉

◆認定NPO法人未来創造ハピネス  
電話 092-519-0842 FAX 092-732-7198  
メール miraisouzou.happiness@gmail.com  
HP・SNS等 <http://www.miraisouzouhappiness.org/>



小学校グラウンドでポイントラリー:KYT(危険予知トレーニング)

## 課題・背景・目的

子ども会などの地域活動を通して、ボランティア精神やリーダーの心構えを学ぶ中高生組織であるジュニアリーダーは、地域の成人式での案内補助、小学校でのレクリエーション補助といった様々な活動に協力している。しかしジュニアリーダーの認知度はそれほど高くはなく人材も不足しており、地域でジュニアリーダーの育成をする仕組みづくりが課題となっている。

## 主な取組内容

令和2年9月に福岡市内において、県内在住の小学6年生、中高生を対象に、ジュニアリーダーとして必要となるスキルや基礎知識を学ぶ研修を行った。研修では、ジュニアリーダーによる活動紹介や、ポイントラリー形式で、KYT(危険予知トレーニング)、野外炊飯学習、ジュニアクイズといったレクリエーションを実施した。

## 工夫した点

研修を行う前に、当日参加する県内在住の青少年健全育成者等を対象に事前説明会を開催し、目標を共有することでより効果的な研修とした。また、研修では参加者と年齢の近いジュニアリーダーが企画運営することで、参加者がジュニアリーダーの活動をより身近に感じることができた。

## 事業の成果・今後の展開

全国組織であり、多種多様な経験が積める子ども会と共に、ジュニアリーダーの活動の活性化を図ることができた。今後は、活動拠点である福岡市中央区での経験を活かし、子ども会・青少年育成連絡会と連携をとって、広域でジュニアリーダーを育成する仕組みづくりを行う。

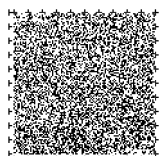
**主な経費** スタッフ人件費、材料購入費、旅費



ジュニアリーダーのレクリエーション



クラフト(芸術的な取り組みもあります)



## 自由提案型 8

## LFC照葉

## —住民でつくる地域内栄養循環圏の構築—

## 協議体 LFC照葉運営協議会

所 在：福岡市東区三苦4-4-27

〈構成団体と役割〉

- ◆特定非営利活動法人循環生活研究所  
企画運営
- ◆積水ハウス株式会社  
土地及び施設の貸与、事業アドバイザー
- ◆ローカルフードサイクリング株式会社  
企画、コンポストのノウハウ提供
- ◆特定非営利活動法人ペパ  
監査、事業アドバイザー

〈問い合わせ先〉

- ◆特定非営利活動法人循環生活研究所  
電話 092-405-5217 FAX 092-405-5951  
メール info@jun-namaken.com  
HP・SNS等 <https://www.jun-namaken.com/>



コンポスト普及のための講座

## 課題・背景・目的

生ごみは家庭ごみの約3割を占めていると言われていた。様々な資源のリサイクルが進む中、日本は世界的にも生ごみの資源化が大きく遅れており、福岡市の家庭から出る膨大な生ごみは焼却処分されている。CO<sub>2</sub>排出削減、ごみ焼却費用削減はもちろんのこと、資源循環の観点からも生ごみの排出削減は喫緊の課題となっている。

## 主な取組内容

福岡アイランドシティの各家庭において、ベランダ等にダンボールコンポストを設置し、生ごみを投入し混ぜたものをアイランドシティ内のコミュニティガーデンで回収。ガーデン内で堆肥を追熟し、完成した堆肥を利用し野菜を育て販売することで、資源を循環させる仕組みを構築した。

## 工夫した点

ダンボールコンポストの費用を住民の負担とすることで、自分も資源循環に貢献しているという意識を持ってもらうことができた。また、コミュニティガーデンにダンボールコンポストを持ち込めない家庭のため、スタッフがアイランドシティ内の拠点を自転車で巡回し、各家庭のダンボールコンポストを回収したことで、より多くの生ごみを収集できた。

## 事業の成果・今後の展開

40世帯がこの仕組みに参加しており、年間で約8tの生ごみを回収することができた。また、この仕組みに参加後、自分でコンポストの設置から堆肥の完成まで行う住民も増えてきた。今後も、資源を循環させる仕組みを確立し継続することで、CO<sub>2</sub>排出削減をはじめとした環境負荷低減と、持続可能な地域内インフラとなることを目指す。

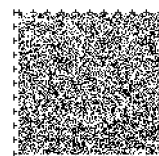
## 主な経費 スタッフ人件費、旅費



家庭で取り組んだコンポストを回収する様子



できた堆肥で野菜を育てる様子



## 自由提案型 9

## スポレク遊びの広場

## 協議体 スポレク遊びの広場協議体

所 在：糸島市志摩桜井1903-2

〈構成団体と役割〉

- ◆特定非営利活動法人ISC糸島スポーツクラブ 企画運営
- ◆PAGORU トライアスロン指導
- ◆怡土けん玉倶楽部 けん玉指導
- ◆株式会社かけはし 広報
- ◆オフリード・デザイン 広報
- ◆Anna's Funglish 会計

〈問い合わせ先〉

## ◆特定非営利活動法人ISC糸島スポーツクラブ

住 所 糸島市前原駅南1-12-24

電 話 090-9577-7424

メール itoshima.sportclub.baba@gmail.com

HP・SNS等 <http://wp3.itoshima-sc.com/>



トライアスロン教室の様子 バランスやジャンプ力などの体験

## 課題・背景・目的

新型コロナウイルスの影響により、子どもたちが外で遊ぶ機会が少なくなり、運動不足や友達との交流の場が失われる状況となっている。子どもたちの健やかな成長のためにも、基礎運動を中心としたトレーニングやスポーツレクリエーションを行うことで運動能力を向上させ、また友達との交流の場を創出することが必要となっている。

## 主な取組内容

糸島市の公園や公共施設において、市内の児童・生徒と保護者を対象に、けん玉教室とトライアスロン体験広場を開催。けん玉教室では、低難易度から高難易度まで多くの技に挑戦し、トライアスロン体験では、走カトレーニング、自転車トレーニング、泳カトレーニングを実施。また、令和3年3月に、ポッチャやラダゲッターといったニュースポーツを行う合同フェスタを開催した。

主な経費 スタッフ人件費、ポスター等の印刷費、旅費

## 工夫した点

専門性をもった指導者を招聘することで、より本格的な教室、体験の場とすることができた。また、連続講座とすることで、技の熟練度が増し、継続的に多くの参加者を募ることができた。さらに、保護者も一緒に体験できる内容とすることで、家庭でも継続できるようにした。合同フェスタでは、気軽にできるニュースポーツなどを取り入れることにより親子が楽しみながら競技に参加できた。

## 事業の成果・今後の展開

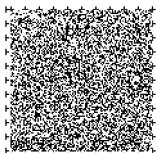
多くの親子の参加があり、子どもの運動の基礎能力、反射神経及び体幹バランスの向上を図るとともに、友達同士の交流の場を構築できた。今後は、けん玉やトライアスロン以外の種目の追加拡充を図りつつ、開催地域の広域化と他団体とのネットワークづくりを行うことにより、より効果的な事業展開を行う。



スポーツフェスタの様子  
親子一緒に体幹計測会なども実施



けん玉教室の様子 難しい技にも挑戦





# 子どもの居場所支援・スペース虹事業

## 協議体 スペース虹協議体

所 在：大野城市上大利2-15-34

〈構成団体と役割〉

- ◆特定非営利活動法人エンパワメント福岡  
企画運営
- ◆大野城学習支援室・かぼちゃ  
事業全般への助言、学習支援室の提供
- ◆スペース虹  
企画運営

〈問い合わせ先〉

- ◆特定非営利活動法人エンパワメント福岡
- 電話 070-5698-7416 FAX 092-519-6580
- メール empower@csf.ne.jp
- HP・SNS等 <http://empower-f.main.jp>



クリスマス会

## 課題・背景・目的

子どもの貧困が社会問題となっており、大野城市においても給食費や学習品費などへの就学援助を受ける子どもたちが多くいる。また、不登校児童・生徒の増加も深刻な問題であり、学校になじめず苦しむ子どもたちが多く存在している。子どもたちが安心して食事ができ、夢を育む学習や体験ができるよう、家庭や学校以外の第3の居場所が必要とされている。

## 主な取組内容

市内の古民家を活用し、毎週日曜日と水曜日に、食事や学習、体験等を支援する「スペース虹」を開設した。日曜日は主に生活が困難な子どもを、水曜日は主に不登校の子どもを対象に、昼食作り、自由遊び、クリスマス会や食育勉強会を行った。また、子どもの貧困、食の支援、不登校の実情について学ぶスタッフ研修を実施。

## 工夫した点

子どもたちが利用しやすいよう、交通の便が良く、庭や部屋が広い古民家を活用した。また、子どもだけではなく、家族も一緒に参加することができ、兄弟姉妹間・親子間で交流を図ることを可能にした。さらに、塾に行っていない子どもたちの学習と軽食支援を継続している団体と協働することで、専門性の高い事業を行うことが可能となった。

## 事業の成果・今後の展開

子どもと家族が延べ44名利用し、食事や学習や体験を通じて、子どもの成長に役立てることができた。また、子どもの現状や様子に関心を持ち、継続的に事業に関わるボランティアが12名に増えた。今後も、食事や学習、体験等を支援する場所を継続して開設することで、子どもの居場所づくりを行っていく。

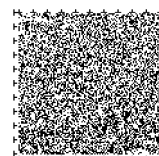
主な経費 使用料、スタッフ旅費、文房具等の消耗品費



ミニチュア遊び



スペース虹の玄関



テーマ型（災害） 1

# 九州北部豪雨復興応援マーケット 「朝倉いきいきヴィレッジ」事業

**協議体 朝倉いきいきヴィレッジ**

所 在：福岡市南区日佐2-6-10 アピスタプラス201

〈構成団体と役割〉

- ◆ 特定非営利活動法人博多映画道場  
事業全体の企画・調整、広報
- ◆ 朝倉いきいきヴィレッジ実行委員会  
店舗スペース設営・運営

〈問い合わせ先〉

◆ 朝倉いきいきヴィレッジ実行委員会

電 話 092-581-6352 FAX 092-581-6353

メー ル hakataeigadojo@gmail.com



朝倉の名産品が集まった青空マーケット  
YMCA福岡駐車場(福岡市城南区七隈)会場

## 課題・背景・目的

九州北部豪雨災害発生から間もなく3年経つが、被災地では、現在でも復旧が進んでいない地域もあり、まだまだ支援が必要な状況。メディアに取り上げられ話題になったことにより、大型店舗などには観光客が戻りつつあるが、個人経営の飲食店、雑貨店などに波及するところまでには至っていない。

## 主な取組内容

被災による風評被害などに左右されない揺らぎなき「朝倉ブランド」を確立するため、朝倉地域の食品、雑貨などの個人経営店舗を集めたマーケット「朝倉いきいきヴィレッジ」を福岡地域及び朝倉市において開催した。

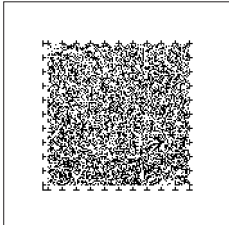
## 工夫した点

食品、工芸品、衣類雑貨等多種多様なジャンルの出店者を集め、手作り雑貨のワークショップを行うなど朝倉地域の魅力をアピールした。また、新聞折込やフリーペーパー、オンライン情報サイト、SNS、会場近隣のポスティングなど、入念な広報活動を行った。

## 事業の成果・今後の展開

6会場全17日間の開催で、延べ3000人を超える来場者があり、どの会場でも「定期的に開催してほしい。」との声も聞かれた。開催情報はフリーペーパー等にも取り上げられ、「朝倉ブランド」の確立という目標の達成に近づくことが出来た。地域発信型の文化事業としてより有意義なものへと継続活動し進化させていく。

**主な経費** チラシ・ポスター制作費・印刷費、設営資材費、人件費、新聞折込など



採れたて野菜や果物、パンやスイーツなどの美味しいもの&可愛い雑貨がいっぱい!電気ビルみらい広場(福岡市中央区渡辺通り)会場



お会計コーナーには長蛇の列が...  
YMCA福岡駐車場(福岡市城南区七隈)会場

## テーマ型（災害） 2

## 学校に行きづらい子・社会に出づらい人の自立支援

## 協議体 あさくら自立支援協議会

所 在：朝倉市杷木久喜宮1508-2

〈構成団体と役割〉

## ◆特定非営利活動法人 フリースペース よつば

相談・学習支援、体験活動、研修会の実施

## ◆久喜宮地域コミュニティ協議会

広報・啓発活動、施設提供

## ◆東峰村教育委員会

広報・啓発活動、施設・設備の提供

〈問い合わせ先〉

## ◆特定非営利活動法人 フリースペース よつば

電話 0946-62-1085 FAX 0946-62-1085

メール tekohira@yahoo.co.jp



(調理実習)家で食事作りも始めた子どもたちもいます

## 課題・背景・目的

九州北部豪雨から3年経ち、フリースクールに通う子どもたちもようやく安定した環境で過ごせるようになった。発災時に中学1年生だった生徒が卒業する今年度は正念場であり、卒業後に自分で選んだ進路を目指して社会的に自立する強力な支援が必要である。また、遠方からの利用者が増えており、東峰村同様、各地にフリースクールを増やす必要がある。

## 主な取組内容

朝倉市において平日毎日通えるフリースクールを開設し、被災児童・生徒の孤立化を防ぐための居場所作りや、自己肯定感を養うための学習支援・多くの体験活動を実施。東峰村においては、村が実施する不登校対策事業と連携して支援を実施した。また、当事者や家族、関係者が学校に行きづらいことを正しく理解するための学習会を開催したほか、個別の相談支援も随時実施した。

主な経費 チラシ・ポスター製作費、講師謝金、人件費など

## 工夫した点

コロナ禍において毎日三カ所で分散開設し、学習支援・相談支援を行ったため、利用者や利用回数も増えた。また、オンライン支援も行った。月1回のノー弁当ディには、食の自立を目指し調理実習を実施。併せて楽器演奏やコーラス発表会、スポーツ大会を実施した。そのほか、子どもたちが主体となった職場体験、卒業生を招いての進路学習会など多くの体験活動を行った。

## 事業の成果・今後の展開

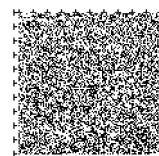
フリースクールを利用する子どもが在籍する学校や教育委員会と日常の子どもの様子を共有しながら情報交換を密に行う事が出来たことで、当事者や保護者が学校を信頼出来るようになった。いろいろな体験活動を増やし、自己肯定感を増す事も出来た。まだ家で苦悶している多くの不登校生が学ぶ機会を保障するフリースクールや居場所を増やすよう、今後も地域や関係機関に働きかけを行っていく。



(朝倉子どもまつり)子どもたちで紙鉄砲遊びの世話をしました



(学習会)毎回一人で悩んでいる保護者・当事者が参加します



## テーマ型（災害） 3

九州北部豪雨の  
朝倉市内被災者をみまもり支援する

## 協議体 朝倉被災者をみまもり隊

所 在：朝倉市大庭4344

〈構成団体と役割〉

## ◆朝倉市ボランティア連絡協議会

食事作り、みまもり活動、イベント企画・運営

## ◆グリーンコープ生活協同組合ふくおか

食材・調理場・会議室の提供、イベント支援

〈問い合わせ先〉

## ◆朝倉被災者をみまもり隊

電 話 0946-52-1414 FAX 0946-52-1414



ボランティアカット

## 課題・背景・目的

九州北部豪雨災害から3年目を迎え、未再建世帯の多くが自立再建困難な高齢者・単身世帯であり、地域から忘れ去られる可能性がある。

災害公営住宅はじめ他へ移り住み、住居については確保されたが、新たな場所での孤立防止、人間関係づくり、生活資金、健康面に対する不安が大きく、被災者支援活動の継続が望まれている。

## 主な取組内容

新型コロナウイルス感染症の影響により、ランチ交流会は一時自粛し、代替として美容師によるボランティアカットを実施。その後、みまもり活動を再開し、玄関先での安否確認、困りごと相談などを行い、相談内容に応じ、行政の支え合いセンターや、弁護士事務所などと連携して支援を実施した。感染症対策徹底のうえ、餅つき大会などのイベントも実施した。

## 工夫した点

ボランティアカットの際には、密な状態を作らないよう、事前に人数を調整し、入れ替え制により実施。名簿作成、検温、マスク、手指消毒など、感染症対策を徹底した。日帰りバス旅行では二人掛けに一人が座り、食事先とも十分な対策協議をおこなった。餅つき大会では、マスクはもとより手袋着用により実施し、持ち帰りとした。

## 事業の成果・今後の展開

コロナ禍でのみまもり活動で対応に苦慮しながらも、これまでの信頼関係をもとに、工夫しながら支援を継続し、かけがえのない交流の場を作ることが出来た。災害公営住宅以外の居住者も含め、それぞれの生活場所での人間関係づくりを支援している。関係者へのアンケート調査を実施のうえ、これまでの3年間の活動の総括を行い、継続の必要性について検討する。

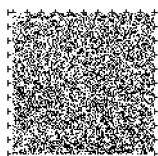
主な経費 謝金、人件費、旅費、会場使用料など



バスハイク



もちつき



# 内発的発展型コミュニティの形成を促す事業

## 協議体 Waっショイ杷木

所 在：朝倉市杷木池田687-3

〈構成団体と役割〉

- ◆一般社団法人Camp  
企画・運営、関係機関との連絡調整
- ◆久喜宮、杷木、松末、志波地域コミュニティ協議会  
地域住民への連絡、ボランティア人材確保、活動場所の提供
- ◆社会福祉法人朝倉市社会福祉協議会  
被災者への連絡
- ◆朝倉市ふるさと課・復興推進室  
行政事業の検討
- ◆JA筑前あさくら  
農業支援

〈問い合わせ先〉

### ◆一般社団法人Camp

電話 0946-62-0954 FAX 0946-62-0954

メール info@camp2020.net

HP・SNS等 fb.me/camp2020.net



災害ボランティア始動

## 課題・背景・目的

令和2年7月豪雨により、朝倉市においても、家屋や農地への土砂の流入などの被害が発生した。しかしながら、他地域においてより大規模な被害が発生していたため、朝倉市内の被災状況の報告が集まらなかったり、資金や人材等の支援が集まらないといった事態が発生した。

## 主な取組内容

情報不足を補うため、関係機関と連携し、杷木地域の被災状況調査を実施。そのうえで、ボランティア人材を確保し、住宅、農地等の土砂や災害ごみの撤去、水路の復旧など災害支援活動を行った。その後、今後の活動に向け、災害支援活動の中で見えてきた地域の課題（ゴミ問題やコミュニティ形成など）について、話し合い検討した。

主な経費 人件費、車両使用料、旅費、消耗品費など



災害地コミュニティ活動



地域住人さん×ボランティアさん

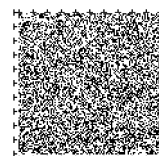
## 工夫した点

団体が起点となり、各地域コミュニティと情報共有をし、さらにその情報を行政や関係団体と共有する仕組みを構築。今後、地域住民自身で課題に対応していけるよう、外部ボランティアだけでなく、地域住民からもボランティアを募り、活動を行った。また、作業時はボランティアにチェックシートを記入してもらうなど、熱中症、感染症対策を徹底した。

## 事業の成果・今後の展開

相談件数…49件、対応件数…34件、被災地集会…12回、ボランティア数…382名

復旧の為の災害ボランティアから、復興の為の地域ボランティアへ向かい、またボランティア活動を呼び水に地域活動の賛同者を呼び起こしていく。また、復興過程での活動と若者（学生）の学びを結びつけ、地域の未来を築いていく。



# 東峰村農業復興支援プロジェクト

## 協議体 東峰村農援隊

所 在：東峰村大字小石原鼓3492-2  
 〈構成団体と役割〉

- ◆東峰村元気プロジェクト  
活動の企画・運営、農家との作業調整
- ◆有限会社つづみの里  
農家・ボランティアからの問合せ対応、資機材の提供、加工講座補助
- ◆合同会社東峰村ツーリズム協会  
広報、企画協力

〈問い合わせ先〉

### ◆有限会社つづみの里

電 話 0946-74-2288

HP・SNS等 <https://www.facebook.com/tohomurasagaishien/>



令和2年7月豪雨により土砂で埋まった水路の復旧作業

## 課題・背景・目的

災害により、土砂や瓦礫、流木等が農地または水路に流入し、耕作ができない農地はまだまだ多く残り、また、耕作放棄地となった農地が景観に影響を及ぼしている。高齢農家の離農も進みつつあり、家庭では地元で穫れた農産物を使った手料理や保存食を作っているが、それらの出品や商品化のノウハウを持ちあわせていない等、悩みを抱えている。

## 主な取組内容

農地や水路に流入した土砂や瓦礫、流木等の除去・搬出作業などの復旧支援や、耕作放棄地となっている農地にひまわりを植栽する景観保全活動「ひまわりプロジェクト」のほか、農家が新たな生産物や加工品等を生み出すための支援として、農産物の加工品講座（全5回）を開催した。

主な経費 講師謝金、消耗品・材料購入費、人件費など

## 工夫した点

「ひまわりプロジェクト」について、当初は現地でボランティアを集めての活動を予定していたが、コロナ禍によりスタッフのみでの活動とせざるを得なかったため、代わりに、公募した各家庭でひまわりを育てていただき、その開花写真を集めてウェブサイトに掲載した。農産物の加工講座では、講座終了後の実践として、実際に売るために製造を行い、販売会を実施した。

## 事業の成果・今後の展開

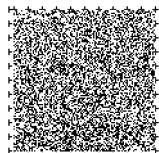
令和2年7月豪雨の影響により土砂で埋まった水路復旧を行ったほか、「ひまわりプロジェクト」には400家庭を超える参加があり、オンラインを活用して復興PRを行うことが出来た。生産物・加工品支援活動については、関係団体と協力のもと継続し、個々での生産やグループでの生産をサポートするとともに、活動拠点づくりを検討する。



満開になった東峰村のひまわり畑（ひまわりプロジェクト）



講座から即実践へ、活気あふれる加工講座



# 東峰村買い物支援プロジェクト

## 協議体 とうほう百貨店

所 在：東峰村大字小石原鼓3492-2  
〈構成団体と役割〉

- ◆東峰村元気プロジェクト  
事業の企画・運営、高齢者へのニーズ調査
- ◆有限会社つづみの里  
買い物支援拠点、調査に基づく入荷体制の整備
- ◆社会福祉法人東峰村社会福祉協議会  
ニーズ調査支援、みまもり活動との連携
- ◆エフコープ生活協同組合  
買い物支援事例の情報提供、商品入荷支援

〈問い合わせ先〉

### ◆有限会社つづみの里

電話 0946-74-2288 FAX 0946-74-2888  
メール tsuduminosato@gmail.com



エフコープとの協力で多品種・多品目の品揃えが可能となりました

## 課題・背景・目的

豪雨災害以降、個人経営の商店が閉店するなどの影響により、東峰村内では、日常的な買い物に行くのにも路線バスやタクシーでの移動を余儀なくされており、高齢者が気軽に買い物をできる環境にない。また、村内の高齢世帯は多くが庭先野菜を生産しているが、移動に支援が必要な方にとっては直売所等への出荷は難しい。

## 主な取組内容

東峰村内のつづみの里農産物直売所を買い物支援拠点とし、買い物支援（商品の配達）を実施する仕組みを構築。また、村内店舗で仕入れ困難な商品をエフコープから仕入れ、日常的な買い物ができる環境を整備した。あわせて、庭先野菜の出荷代行支援を行った。

## 工夫した点

エフコープ生活協同組合の全国的なネットワークを活かし、全国の類似の取組みを参考にしながら、東峰村独自の買い物支援の体制を構築することが出来た。また、買い物支援が必要な方へのニーズ調査や高齢者の見守りをされている集落支援員の方との協議を適宜行い、無理のない商品販売の方法を検討した。

## 事業の成果・今後の展開

買い物支援の仕組みの構築により、移動に支援の必要な方がストレスなく日常的な買い物を行うことが出来るようになった。また、庭先野菜の出荷代行支援により、少額ながらも高齢者の収入が生まれ、日々の生きがいがいづくりにもつながっている。今後は、地域住民との連携を図り、持続可能な買い物支援の手法を検討していく。

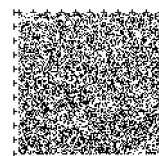
主な経費 人件費、車両使用料、消耗品費など



つづみの里（農産物直売所内）に  
買い物支援コーナーを開設しました



店舗内での村民同士のコミュニケーションが増え、  
高齢者の安否確認にもつながっています



# 福岡県共助社会づくり基金ホームページのご紹介

このホームページでは、今までにご寄附をいただいた寄附者の皆様や、寄附金の活用実績などを掲載しています。共助社会づくり基金への寄附を検討されている方、NPO・ボランティア団体が取り組む協働事業を応援したい方、ぜひ一度「福岡県共助社会づくり基金ホームページ」をご覧ください。



<https://www.kifu.pref.fukuoka.lg.jp>

## お問い合わせ・アクセス

**住 所**：〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13番50号 福岡県吉塚合同庁舎5F

**連絡先**：TEL 092-631-4411 FAX 092-631-4413

MAIL [nvc@pref.fukuoka.lg.jp](mailto:nvc@pref.fukuoka.lg.jp)

**アクセス**：JR「吉塚」駅より徒歩約3分／西鉄バス「吉塚駅前」バス停より徒歩約3分

福岡市営地下鉄「馬出九大病院前」より徒歩約10分

■ 福岡県共助社会づくり基金 <https://www.kifu.pref.fukuoka.lg.jp/>

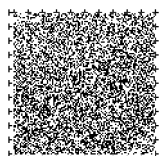
■ 福岡県NPO・ボランティアセンター <https://www.nvc.pref.fukuoka.lg.jp/>



福岡県NPO・ボランティアセンター  
(人づくり・県民生活部社会活動推進課)

福岡県

※この冊子はイオン九州株式会社、旧マックスバリュ九州株式会社、株式会社ダイエー、トヨタL&F福岡株式会社、西部ガス株式会社から福岡県共助社会づくり基金への寄附金を活用して作成しています。



福岡県行政資料	
分類記号 JA	行政コード 5200116
登録年度 02	登録番号 0001